

エホバを畏れることが大切なのはどうしてか

「エホバは、ご自分を畏れる人を親しい友と[する]」。詩編 25:14

8番の歌 エホバは避難所

何を学ぶか*聖書は私たちに、神を畏れるようにと勧めています。この記事では、神を畏れるとはどういうことか、畏れの気持ちを強めるためにどんなことができるかを考えます。そして、勇気を持ってエホバに忠実に仕えていく上で、神への畏れがどのように助けとなるかも考えます。

1-2. 詩編 25 編 14 節によると、どうすればエホバの親しい友になることができますか。

誰かといつまでも親友でいるためには、どんなことが大事だと思いますか。お互いを大切にすることや支え合うことをイメージするかもしれません、畏れの気持ちが必要だとは思わないでしょう。でも、この記事の主題聖句にある通り、エホバと親しい友になりたいと思うなら、エホバを「畏れる」必要があります。（詩編 25:14 エホバは、ご自分を畏れる人を親しい友とし、契約を知らせるを読む。）

2 どれほど長くエホバに仕えてきたとしても、エホバへの畏れの気持ちを持ち続けることは大切です。では、エホバを畏れるとはどういうことでしょうか。どうすれば畏れの気持ちを強めることができますか。管理人オバデヤ、大祭司エホヤダ、エホアシュ王から、エホバへの畏れについてどんなことを学べるでしょうか。

エホバを畏れるとはどういうことか

3. 何かを怖いと思う気持ちは、どのように私たちのためになりますか。

3 エホバを畏れるとは、エホバが悲しむようなことを行うのを怖いと感じることです。何かを怖がるというのはネガティブな感じがするかもしれません、私たちのためになる場合があります。例えば、落ちるのが怖いと思えば、崖の端の方には近づかないようにするでしょう。けがをするのが怖いと思うと、危険な所から逃げようとなります。大切な人との友情が壊れるのが怖いと思えば、不親切なことを言ったりしたりしないようにするはずです。

4. サタンはエホバに対してどんな気持ちを持たせようとしていますか。

4 サタンは人々にエホバへの正しくない恐れを持たせようとしています。「エホバはすぐに怒る神で、私たちに罰を与えようとしている。人間がエホバを喜ばせることなんてできない」と思わせようとしています。（ヨブ 4:18, 19 何と、神はご自分に仕える人のことを信じていない。ご自分の天使（*使者）をとがめる。19 そうであれば、人は粘土の家に住んでいるのだから、なおさらだろう。土で成り立っていて、

蛾のようにたやすくつぶされる) そして、エホバに対する恐怖心を抱かせて、エホバに仕えるのをやめさせようとしています。サタンのこうしたわなにはまってしまわないためには、エホバへの正しい畏れの気持ちを持つ必要があります。

5. エホバを畏れるとはどういうことですか。

5 エホバを畏れる人は、エホバを愛し、エホバとの友情を傷つけるようなことは決してしたくないと思うものです。イエスはそのような「畏れ」を持っていました。 (ヘブ 5:7 キリストは、地上で生きていた(d*肉体でいた)間、自分を死から救える方に祈願を捧げ、願い(*請願)を伝えました。大きな声で叫び、涙を流しながらそのようにし、神への畏れゆえに聞き入れられました) エホバに恐怖心を抱くことはありませんでした。 (イザ 11:2, 3 その者の上にエホバの聖なる力(*)がとどまる。それにより知恵と理解を示し、助言を与え、強くなり、知識を得て、エホバを畏れる。見える事柄だけに基づいて裁くことをせず、聞いた事柄だけに基づいて戒めることもしない) エホバのことを心から愛し、喜んでエホバに従いました。 (ヨハ 14:21 私のおきてを受け入れてそれに従う人は私を愛しています。さらに、私を愛する人は父に愛されます。そして私はその人を愛して、自分のことをはっきり知らせます, 31 しかし、私が父を愛していることを世の人々が知るために、父が命じた通りにしています。立ちなさい。出掛けましょう) 私たちもイエスと同じように、エホバに深い敬意と畏敬の気持ちを持っています。エホバが愛情深く、賢く、公正で、力強い方だからです。エホバは私たちのことを深く愛していて、私たちがご自分のアドバイスにどう応じるかに关心を持っています。私たちは、エホバを喜ばせることもできれば、悲しませてしまうこともあるのです。 (詩 78:41 繰り返し神を試し、イスラエルの聖なる方を悲しませた。格 27:11 わが子よ、賢くあって、私の心を喜ばせよ。私をあざける(*に挑む)者に私が答えるためである)

畏れの気持ちを強める

6. エホバへの畏れの気持ちを強めるためにどんなことができますか。 (詩編 34:11)

6 私たちは、エホバへの畏れを生まれつき持っているわけではありません。それで、努力が必要です。 (詩編 34:11 私の子たち、来て、聞きなさい。エホバへの畏れを教えようを読む。) 創造物を観察するなら、この畏れの気持ちを強めることができます。「造られた物」を観察して、エホバの知恵や力や大きな愛について考えると、エホバへの愛や敬意が深まります。 (ロマ 1:20 神の見えない性質は、世界の創造以来明らかです。造られた物を見れば、神が永遠に力を持っていて、確かに神であるということが分かります。ですから、彼らは言い訳ができません) アドリーン姉妹はこう言います。「創造物を観察すると、エホバの知恵に驚かされます。エホバは私にとって何がベストなのかを知っている、ということにも気付かされます」。姉妹はこうしたことをじっくり考えたので、「私に命を与えてくれたエホバとの友情を傷つけるようなことは決してしたくない」と思うようになりました。あなたも、今週時間を持って創造物について考えてみるのはどうですか。きっとエホバへの愛や敬意が深まるでしょう。 (詩 111:2, 3 エホバの偉業は素晴らしい、その偉業を喜ぶ人は皆、それを調べる。3 神の行いは栄光に輝いている。神の正しさは永遠に続く)

7. エホバへの畏れを強める上で、祈りはどのように助けになりますか。

7 よく祈ることによっても、エホバへの畏れの気持ちを強めることができます。祈れば祈るほど、エホバが身近な存在になります。試練に立ち向かうための力を求めて祈る時、エホバがどれほど力強い方かを思い出せます。イエスを贖いとして与えてくださったことに感謝する時、エホバがどれほど愛してくださっているかを実感できます。そして、問題にぶつかっている時に助けを求めて祈るなら、エホバが本当に賢い方であることを思い起こせます。このように祈るなら、エホバへの敬意が深まるでしょう。そして、エホバとの絆を壊すようなことは決してしたくない、という気持ちになるはずです。

8. エホバへの畏れを持ち続けるために、どんなことができますか。

8 聖書中の良い例や悪い例を調べることも、エホバへの畏れの気持ちを持ち続ける上で助けになります。ではまず、エホバに忠実に仕えた2人の人について考えてみましょう。アハブ王の家の管理を任されていたオバデヤと、大祭司エホヤタです。そして、後にエホバに仕えるのをやめてしまったユダのエホアシュ王についても考えます。

オバデヤのように勇気を示す

9. エホバへの畏れはどんな面でオバデヤの助けとなりましたか。 (列王第一 18:3, 12)

9 聖書によると、オバデヤは「エホバを非常に畏れる人」でした。*これは、何百年か後に聖書を書いた預言者オバデヤとは別人です。 (列王第一 18:3 一方、アハブは、家の人たちをまとめていたオバデヤを呼び寄せた。 (オバデヤはエホバを非常に畏れる人だった、12 私があなたのもとから去ると、あなたはエホバの聖なる力(*))によって、私の知らない所へ連れていかれるでしょう。私がアハブに伝えても、アハブはあなたを見つけられず、私を殺すに違いありません。私は若い頃からエホバを畏れておりますを読む。) それで、オバデヤは正直で信頼できる人になり、王家の管理人としての仕事を王から任されました。 (ネヘミヤ 7:2 また、私の兄弟ハナニと要塞の長ハナニヤにエルサレムを治めるよう命じた。ハナニヤはとても信頼できる人で、ほかの人たちよりも真の神を畏れていたと比較。) オバデヤはエホバを畏れていたので、並外れた勇気を示すこともできました。この勇気はオバデヤにとって本当に必要なものでした。その時代に王だったアハブは、「エホバから見てそれまでの[どの王]よりも悪かった」からです。 (王一 16:30 オムリの子アハブはエホバから見てそれまでの誰よりも悪かった) さらに、アハブの妻イゼベルはバアル崇拜者で、エホバをとても嫌っていました。北王国からエホバを崇拜する人を除き去ろうとしていました。神の預言者を大勢殺すことまでしました。 (王一 18:4 イゼベルがエホバの預言者たちを殺害した時には、100人の預言者を集めて50人ずつ洞窟に隠し、パンと水を供給した) ですから、オバデヤはとても難しい時代にエホバに仕えていたと言えます。

10. オバデヤはどのように並外れた勇気を示しましたか。

10 オバデヤはどのように並外れた勇気を示したでしょうか。イゼベルが預言者たちを殺そうと捜していた時、オバデヤは「100人を50人ずつ洞窟に隠し、パンと水を供給し続け」ました。 (王一 18:13, 14 あなたは、イゼベルがエホバの預言者たちを殺した時に私がしたことをお聞きになっていないのですか。私はエホバの預言者100人を50人ずつ洞窟に隠し、パンと水を供給し続けたのです。 14 それなのに今あなたは

、『「エリヤがここにいる」と主人に伝えに行きなさい』と言います。主人は私を殺すに違いありません』)もしこのことがイゼベルに知られたら、オバデヤは処刑されてしまったでしょう。もちろんオバデヤも、死ぬのは怖かったはずです。それでも、自分の命よりもエホバやエホバに仕える人たちのことを大切にしました。



エホバの証人の活動が禁止されている中でも、兄弟が勇気を持って仲間に出版物を届けている。(11節を参照。)

*写真や挿絵: 再現。1人の兄弟が禁令下で出版物を配っている。

11. 現代のエホバの証人は、どのようにオバデヤを見習っていますか。(写真も参照。)

11 現在、多くの兄弟姉妹はエホバの証人の活動が禁止されている地域で暮らしています。兄弟姉妹は当局にふさわしい敬意を払っていますが、オバデヤのようにエホバに全くの専心を示しています。(マタ 22:21 その人たちは、「カエサルのです」と言った。イエスは言った。「それでは、カエサルのものはカエサルに、しかし神のものは神に返しなさい」) エホバを畏れているので、人間ではなくエホバに従っています。(使徒 5:29 ペテロとほかの使徒たちは答えた。「私たちは、人ではなく神に従わなければ(*統治者に従うように従わなければなりません) 良い知らせを伝えたり注意深く集まり合ったりすることを続けています。(マタ 10:16 さあ、私はあなたたちを遣わします。あなたたちはオオカミの間にいる羊のようになります。それで、蛇のように用心深く、しかもハトのように純真なことを示しなさい、28 そして、体は殺せても命を奪えない人たちを恐れではありません。命も体もグヘナで滅ぼせる方を畏れなさい) 仲間が信仰を強める食物をきちんと手に入れられるようにもしています。アフリカのアンリ兄弟の例を考えてみましょう。兄弟が住む地域は、一時期エホバの証人の活動が禁止されていました。禁令中、兄弟は仲間に信仰を強める食物を届ける役割を果たしました。こう書いています。「私はもともと内気な方です。エホバへの深い敬意があったからこそ、勇気を持って行動できたんだと思います」。私たちもエホバを畏れているなら、アンリ兄弟と同じように勇気を示すことができます。

大祭司エホヤダのように揺るぎない愛を示す

12. エホヤダと妻は、エホバへの揺るぎない愛をどのように示しましたか。

12 大祭司エホヤダもエホバを畏っていました。それで、揺るぎない愛を示し、エホバを崇拝するよう人々を励ました。イゼベルの娘のアタリヤがユダの王権を奪った時のことを見てみましょう。人々はアタリヤを恐っていました。それも当然でした。アタリヤは残酷な人だったからです。権力欲がとても強く、王位に就くために、自分の孫たちを全員殺そうとさえしました。(代二 22:10, 11 アハジヤの母アタリヤは自分の子が死んだのを知り、ユダの王家の子孫を皆滅ぼそうと立ち上がつ

た。 11 しかし、王の娘エホシャブアトは、殺されようとしていた王の子たちの中から、アハジヤの子エホアシュを抱いてひそかに連れ出し、その子と乳母を奥の寝室に入れた。そしてエホラム王の娘エホシャブアトは、エホアシユをアタリヤに殺されないようかくまつた。エホシャブアトは祭司エホヤダの妻で、アハジヤの姉妹である）でも、エホアシュは生き残ることができました。エホヤダと妻のエホシャブアトがエホアシュをかくまって世話をからです。こうして2人は、ダビデの王統が途絶えないようにしました。エホヤダはアタリヤを恐れるのではなく、エホバに搖るぎない愛を示したのです。（[格 29:25](#) 人への恐れはわなとなる。エホバに頼る人は保護される）

13. エホアシュが7歳の時、エホヤダはどのように搖るぎない愛を示しましたか。

13 エホアシュが7歳の時、エホヤダはエホバへの搖るぎない愛を再び示しました。エホヤダはある計画を立てます。もしうまくいけば、エホアシュがダビデの王統を継ぐ正当な王になることができます。でも失敗するなら、エホヤダは命を失うことになるでしょう。結局、エホバの助けによってこの計画は成功しました。レビ族と氏族長たちの支えもあり、エホヤダはエホアシュを王にし、アタリヤを処刑しました。（[代二 23:1-5](#) 7年目に、エホヤダは勇敢に行動し、百人長たち、すなわちエロハムの子アザリヤ、エホハナンの子イシュマエル、オベデの子アザリヤ、アダヤの子マアセヤ、ジクリの子エリシャファトと合意(*契約)を結んだ。2彼らはユダ全域を回り、ユダの全ての町からレビ族とイスラエルの氏族長たちを集めてエルサレムに来た。3会衆全体は真の神の家で王と契約を結んだ。その後、エホヤダはこう言った。「皆さん、エホバがダビデの子たちについて約束した通り、王の子が治めます。4皆さんにしてもらうことを言います。次の安息日の当番になっている祭司とレビ族のうち3分の1は戸口番となり、53分の1は王の家(*宮殿)に、3分の1は『土台の門』にいるようにしてください。民は皆、エホバの家の庭にいるようにしてください、[11, 12](#) それから、王の子は連れ出されて王冠をかぶせられ、律法の書(d*証し)を渡され(律法を守ることを忘れないよう、律法の書が王の頭の上に置かれたのかもしれない)、王となつた。エホヤダとその子たちは彼に油を注ぎ(*), 「王が栄えますよう！」と言つた。12アタリヤは、民が走る音や王を賛美する声を聞くと、すぐにエホバの家にいる民の所に行つた、[15](#) それで彼らはアタリヤを取り押さえた。彼女は王の家(*宮殿)の「馬の門」の入り口まで連れてこられ、そこですぐに殺された；[24:1](#) エホアシュは7歳で王になり、エルサレムで40年治めた。彼の母はツィブヤといい、ペエル・シェバの人だった）そして、エホヤダは「エホバと王と民の間の契約を成立させ」ました。それは、「彼らが引き続きエホバの民になる」という契約で」した。（[王二 11:17](#) エホヤダはエホバと王と民の間の契約を成立させた。彼らが引き続きエホバの民になるという契約である。また、エホヤダは王と民の間の契約も成立させた）さらに、「エホバの家の門のそばに門番たちを配置し、何かしら汚れた人は誰も入れないようにし」ました。（[代二 23:19](#) エホヤダはまた、エホバの家の門のそばに門番たちを配置し、何かしら汚れた人は誰も入れないようにした）

14. エホヤダはエホバを敬ったので、どのように尊ばされましたか。

14 エホバは、「私を敬う人は私に尊ばれ[る]」と言っていました。確かにエホバは、エホヤダのために素晴らしいことを行いました。（[サム一 2:30](#) それでイスラエルの神エホバは言う。「私は確かに、あなたの家系の人とあなたの父祖の家系の人はいつまでも私に仕える(d*の前で歩む)、と言つた」。しかし今、エホバは宣言する。「もうそのようにはならない。私を敬う人は私に尊ばれ、私を侮る人は軽んじられるからだ」）例えば、エホヤダの立派な行いが聖書に記録されるようにしました。私たちはそこから学ぶことが

できます。 (ロマ 15:4) さらに, 「**真の神と神の家に関してイスラエルで良いことを行った**」の
で, 「**『ダビデの町』に王たちと共に葬られ**」ました。これは**とても名誉な**ことでした。 (代二
24:15, 16)



大祭司エホヤダの**エホバを畏れている**なら, **兄弟姉妹をぜひ支えたい**という気持ちになる。 (15節を参照。)

***写真や挿絵:** 若い姉妹が年長の姉妹から**電話伝道の方法**を学んでいる。年長の兄弟が**公共エリア伝道**で勇気を持って語っている。経験を積んだ兄弟が**王国会館のメンテナンスのトレーニング**を行っている。

15. エホヤダのエピソードからどんなことを学べますか。 (写真も参照。)

15 エホヤダのエピソードから, 私たち全ては**エホバへの畏れの気持ちを強めるのに役立つ点**を学べます。長老たちは, **エホヤダを見習って会衆をいつも見守り, 世話を**するようにしましょう。 (使徒 20:28) **年長の兄弟姉妹はどうでしょうか。** **エホバを畏れ, 揺るぎない愛を示し続ける**なら, エホバがご自分の考えていることを**成し遂げる時に用いていただく**ことができます。エホバは年長の兄弟姉妹のことを大切に思っているのです。若い人たちは, エホバがエホヤダにどんな素晴らしいことを行ったかに注目できます。エホバのように, **年長の兄弟姉妹に敬意を持って接する**ようにしましょう。特に, **長い間エホバに仕え続けてきた人たち**にそうできます。 (格 16:31) そして, 私たち全ては**エホヤダを支えたレビ族や氏族長たちから学ぶ**ことができます。私たちも, 「**教え導いている人たち**」に従い, **心からサポート**するようにしましょう。 (ヘブ 13:17)

エホアシュ王のようになってはいけない

16. エホアシュはエホバへの畏れを持ち続けませんでした。 どんなことからそれが分かりますか。

16 エホアシュ王は**エホヤダからとても良い感化を受けました。** (王二 12:2) それで, 若い頃はエホバに喜ばれることを行いたいと思っていました。でも, やがて**エホヤダが死ぬ**と, エホアシュは**エホバから離れた高官たちの言うことを聞く**ようになりました。どんな結果になったでしょうか。エホアシュも民も, 「**聖木や偶像を崇拝するようになり**」ました。 (代二 24:4, 17, 18) エホバはとても心を痛め, 「**彼らをご自分のもとに連れ戻そうとして預言者たちを遣わし続け**」ました。でも, 「**彼らは耳を傾け**」ませんでした。彼らは, **エホヤダの息子のゼカリヤの言葉も聞き入れませんでした**。ゼカリヤは, エホバの預言者で祭司であるだけでなく, **エホアシュのいとこに当たる人でした。** エホアシュは**ゼカリヤの家族に命を助けてもらったのに, 感謝するどころか, ゼカリヤを殺**してしまいました。 (代二 22:11; 24:19-22)

17. エホアシュはどうなりましたか。

17 エホアシュはエホバへの畏れを持ち続けなかつたので、悲惨な目に遭いました。エホバが「私を侮る人は軽んじられる」と言っていた通りです。 (サム一 2:30) エホアシュの「軍勢は非常に多かつた」にもかかわらず、シリアの小さな軍隊に敗れ、エホアシュは「重傷を負」いました。その後、シリア軍は引き揚げていきましたが、エホアシュはゼカリヤを殺したことで家来たちに暗殺されました。エホアシュはとても悪い王だったので、「王たちの墓地」に葬られることもありませんでした。 (代二 24:23-25。マタイ 23:35 の注釈「バラキヤの子」の項目を参照。)

18. エレミヤ 17 章 7, 8 節によると、エホアシュのようにならないためには、どんなことが大切ですか。

18 エホアシュの例からどんなことが分かるでしょうか。エホアシュは、根が浅く、杭に頼って立っている木のようでした。杭のような存在だったエホヤダがいなくなり、背教の嵐が吹き付けると、エホアシュは倒れてしましました。この例から、エホバへの畏れを持ち続けるためには家族や仲間の兄弟姉妹に頼りきりではいけないということが分かります。エホバと親しい友でいるためには、聖書を学び、じっくり考え、祈ることによって、神への専心や畏れを自分で強めていく必要があります。 (エレミヤ 17:7, 8 を読む。ヨロ 2:6, 7)

19. エホバは私たちにどんなことを求めていますか。

19 エホバは私たちに多くのことを求めているわけではありません。エホバが求めていることは、伝道の書 12 章 13 節にまとめられています。そこには、「真の神を畏れ、その方のおきてを守りなさい。人の務めはそれに尽きる」とあります。エホバを畏れているなら、将来どんな問題にぶつかるとしても、オバデヤやエホヤダのようにエホバに仕え続けていくことができます。私たちはいつまでもエホバの親しい友でいることができるのです。

思い起こせますか

1. エホバを畏れるとはどういうことですか。

2. 管理人オバデヤと大祭司エホヤダからどんなことを学べますか。

3. エホアシュ王のようにならないためには、どんなことが大切ですか。

3番の歌 私たちの力、希望、確信

聖書は私たちに、神を畏れるようにと勧めています。この記事では、神を畏れるとはどういうことか、畏れの気持ちを強めるためにどんなことができるかを考えます。そして、勇気を持ってエホバに忠実に仕えていく上で、神への畏れがどのように助けとなるかも考えます。

これは、何百年か後に聖書を書いた預言者オバデヤとは別人です。

写真や挿絵: 再現。1人の兄弟が禁令下で出版物を配っている。